広報
さめがわ

昭和57年
3月号
No. 339
編集兼発行
鮫川村役場
塙町佐藤印刷所

盛大に開かれた今年の村政教室



鮫川村主催の村政教室は、100余名の参加者を得て2月14日に開かれました。

午前9時山村開発センター前広場に集合して、石田村長からあいさつがあり、5台のバスに分乗して村内施設の見学に入りました。

先づ国道349号線を南下して、青生野の鹿角平乾草供給センター、青生野小学校屋内運動場などで、地域発展の姿を現地で確めました。

続いて国道289号線を渡瀬地区に下り、江竜田前の開発された農耕団地の広大さに目を見張り、富田小学校、薬師堂などを見学し、山村開発センターに帰って昼食をとりました。

午後は赤坂西野、西山地区を回り、主要地方道、県道、村道、林道などを通り、その整備状況、また新しくできた集落センター、たばこ育苗センターを見学し、最後に鮫川小学校の完成した新校舎を見ました。

終って山村開発センター集会室で懇談に移り、村長を囲んで感想やら要望やらで、話合いが続き、有意義な実りある一日の行事を終りました。

- ⊙ 3月23日　村内小学校卒業式
- ⊙ 4月1日～30日　河川美化月間
- ⊙ 4月6日～15日　春の全国交通安全運動

今月の人口
（3月1日現在）

		前月比
人口	5,608	(＋5)
男	2,793	(＋2)
女	2,815	(＋3)
世帯	1,137	(　0)

村政の窓み (35)

昭和五七年度予算の編成について

村長　石田卯子八

昭和五七年度の村の当初予算は三月五日から開会された村議会で慎重審議が続けられ、会期最終日に原案通り議決されました。

一般会計は一七億七、一〇〇万円で前年対比九・一%の伸びであります。特別会計の国民健康保険は事業勘定が二億九、六六〇万余円で八・五%の伸び、直診勘定は四、一八二万円で二・六%の伸びであります。また水道会計は六九五万余円で五・六%の減となりました。

昭和五七年度は二年続いた気象災害の後をうけて、村の行財政上はもとより、住民皆様の生活安定のために、格別の苦心と努力が望まれる年であります。

その反面、国の臨調答申に基づく行政改革の波は、末端町村の行財政にも相当きびしい影響をもたらすものと予想されます。

新年度予算はこれらの諸情勢を踏まえて、困難を打開し、活力をよび起し、前途に明るさを望むものであるべきことは当然ながら、国家財政再建のあおりをうけて財源の縮少、事業の制約となり、いきおい重点選別主義を採らざるを得ない情勢下にあります。

ここに行財政運営上、創意工夫と新なる努力の積み重ねが必要であります。即ちわが村は既定の基本方針を堅持しつつ、諸般の振興計画は可能とする限りこれを実施に移し、ムダを省き不要不急を抑えて、効率高い行政効果の具現をねらいとするものであります。

豊かな活力ある人づくりのために、幼児教育の充実を図るものとし、幼稚園舎の増築、また社会教育、社会体育の振興に施設の整備を進め、文化振興奨励事業の芽を育てるなどの配慮をしました。

住民のくらしを守る施策の一環として、各種建設事業を多面的に計画し、投資的経費を対前年比二六・八%増とし、これを救農的に運営して賃金所得の拡大を図ることとしました。

明るく豊かな魅力ある居住環境づくりには、先ず交通網の整備が優先されなければならず、国県道、村道、林道、農道、作業道等それぞれ期待し得る補助事業、辺地対策、過疎対策事業の導入、県営・県代行事業の継続施行を計画してあります。

足腰の強い産業を育てていくことは最も重要な課題でありますが、新農構事業が三年目になり、第三期山村振興事業が実施年度に入り、また県内唯一の林業総合整備事業も進行するので、調和のある産業の村づくりが前進することになります。

この年もまた一層のご理解とご協力をお願いする次第であります。







今年の村政教室は厳寒の候で参加数が心配されましたが、バス5台を要する程の盛況で、見学個所も興味深く大変よろこばれました。毎年開いて欲しいという要望や、道路の改良ほそう、体育館の建設、土地改良など数多くの意見や要望が出されました。

写真上は江竜田開発団地で説明を聞く一行、中は葉たばこ育苗センターを見学する一行。下は開発センターでの懇談会で、村長と共に暗渠排水工事の体験を語る渡瀬の藤田美好さん。

心配ごと相談

三月二三日(火)
午前一〇時～午後二時
山村開発センター

おめでた

一月
虹ケ沢　石井　誠　父石井一三
鬼越　圓谷　祥子　父圓谷　實

二月
岫長　北條ひとみ　父北條泰男
火打石　佐藤　智彦　父佐藤文夫
名下　須藤　勝美　父須藤孝一
西　鈴木　愛美　父鈴木新市
中沢　鷺野谷　輝　父鷺野谷重一
小名沢　生田目洋司　父生田目広美
大平　関根　瑠美　父関根芳一
名下　西野久美子　父西野信美
下　菊地　優子　父菊地吉雄

おくやみ

年令　世帯主

二月
内ケ竜　中川西セキ　77歳　中川西春美
新宿　須藤　キノ　74歳　須藤　宏
火打石　佐藤　ミネ　88歳　佐藤幸男
折戸　阿久津之助　92歳　阿久津達也
巌ノ草　阿久津栄子　34歳　阿久津正生
関下　藤田　秀男　54歳　藤田幸男

三月
前沼　青戸倉之進　80歳　青戸敏哉
下　木之内一夫　53歳　木之内トヨ子
戸草　芳賀　ハナ　87歳　芳賀逸男

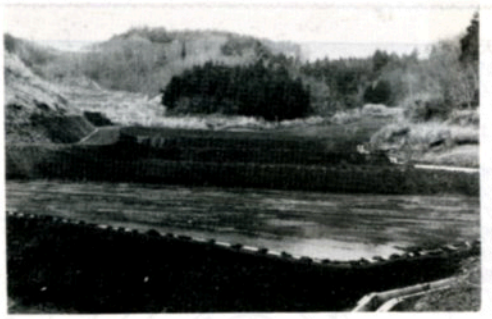
25年続いた納税完納表彰式



恒例の納税表彰式は、143名の納税組長さんと、多数の来賓をお迎えして、2月16日開発センター集会室でにぎやかに行われました。今年は25年、4半世紀継続完納ということで他にその例なく、税務署長さん、県税事務所長さんからも賛辞がおくられました。

併せて国民年金の完納表彰や、交通事故防止コンクールの表彰、環境美化協力者への感謝状贈呈も行われました。

◎30年継続完納特別表彰 ▷西山区
◎完納表彰 ▷赤坂西野区（26年）▷赤坂中野区（26年）▷赤坂東野・石井草区（25年）▷富田区（27年）▷渡瀬区（27年）▷青生野区（26年）
◎交通事故防止コンクール
▷1位青生野区▷2位西山区▷3位赤坂東野・石井草区
◎環境美化協力者
石井利夫（赤坂西野）、商工会婦人部
◎消防施設協力者
▷須藤栄恭▷森田俊策▷森　康


整然と区画整理された塚本地区

新農業構造改善事業

塚本・岩野草地区圃場整備 56年度事業おおむね完了

新農業構造改善事業で昭和五五年度から実施している塚本、岩野草地区の土地基盤整備事業は、今年で二年目ですが、天候に恵まれたため工事も順調に進み、五六年度事業はおおむね完了しました。

塚本地区
事業費　四、五九〇万円
事業量　圃場整備＝五・三ha、暗渠排水＝六・一ha、道路工、水路工ほか
請負者　棚倉町藤田建設工業㈱

岩野草地区
事業費　五、四九五万一千円
事業量　圃場整備＝四・九ha、暗渠排水＝四・二ha、道路工、水路工ほか、
請負者　棚倉町　㈱藤田組

行政区単位

交通事故防止コンクール 青生野区が二年連続一位


表彰される青生野、西山、東石の区長さん

「村内から交通事故をなくそう」を合言葉に、昭和五六年度の行政区単位交通事故防止コンクールが七月一日から一二月三一日までの六か月間行われ、青生野区が二年連続の一位に輝きました。

このコンクールは、交通事故防止に対する住民の意識を盛り上げ交通事故をなくそうと毎年実施されているもので、棚倉、石川両警察署管内で発生した事故と、違反の発生率の少ない行政区が表彰されます。

昭和五六年度は、一位が青生野区、二位西山区、三位赤坂東野・石井草区で、二月一六日の納税表彰式の席上表彰されました。

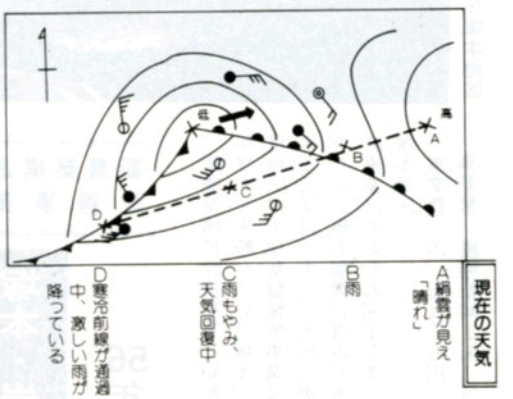
◎ コンクール成績表

行政区	人口	事故発生件数	違反件数	割合	順位
赤坂西野	916	18	1.97		6
西山	882	14	1.59		2
赤坂中野	936	16	1.71		4
赤坂東野・石井草	1,040	17	1.63		3
富田	484	9	1.86		5
渡瀬	703	14	1.99		7
青生野	466	4	0.86		1
計	5,427	92	1.70		

◎ 事故・違反別調書

区分 / 行政区	事故物損（を含む）	酒気帯び	無免許	速度違反	一時不停止	通行区分	信号無視	駐車違反	免許不携帯	その他	計
赤坂西野	1			3	4	4		2	2	2	18
西山	1		1	3	2	4	1			2	14
赤坂中野		1	2	11	1					1	16
赤坂東野・石井草	1	1	1	5	3	3	1			2	17
富田			1	3	3		1	1			9
渡瀬		1		7	1	1	1			3	14
青生野			1	1	1	1					4
計	3	3	6	33	15	13	4	3	2	10	92

天気図を読もう ②



天気図には、地図の等高線のような、円形やだ円形の線の輪がしるされています。

地図の等高線は、同じ高さの地点を結んだものですが、天気図の場合は気圧の等しい点を結んだもので、等圧線といいます。

この等圧線の中心部分に**高**と書いてあるのは高気圧のことで、周りより気圧が高くなっていることを表し、**低**は周囲よりも気圧の低いところ、つまり低気圧を表しています。そして、一般的に高気圧圏内は天気が良く、低気圧圏内は天気が悪いといわれます。

低気圧と前線は やっかいもの

天気図を見ると、低気圧の中心から▶▶や▶▶の線が出ていることがよくありますが、これが**前線**を表す記号です。前線とは、暖かい空気のかたまり（気団）と冷たい空気の一団がぶつかり合っている境目のことをいい、一般的に天気は良くありません。

――前線と天気の変化――

低気圧圏内の天気分布は複雑です。天気図（図参照）では右下（南東）と左下（南西）に延びる前線があります。この二つの前線は性質が異なっています。

右下に延びる前線（▶▶）は温暖前線といい、山ぼこの印（▶）のついた側（北）では雲が低くたれ込め、広い範囲（約三〇〇キロ）にわたり、しとしとと雨が降ります。

左下に延びる前線（▶▶）は寒冷前線といい、三角の印（▶）のついた側（東）では比較的狭い範囲（約七〇キロ）で積乱雲が発生し、雨が急に降ったりやんだりします。

その二つの前線にはさまれた地域は、南西の暖かい風が吹き「晴れ」または「曇り」となります。

◇　◇

「天気は西から変わる」といわれます。規模の大小はありますが、高気圧は低気圧は海の波のように交互に西から東へ流れています。ですから日本の天気も原則的に西から東へと変わっていく、というのも天気予報をするうえでは重要な要素です。

これらのことを基に、天気予報が発表されるのですが、実際には太陽や陸地、海岸からさまざまな影響を受けますので、理論どおりにはいきません。

ちなみに、天気予報のはずれの平均は二〇％くらいです。

「奥鮫川路」が県広報誌の表紙に



本村広畑出身 中井恒峯画伯の作品

県の唯一の広報誌「月刊ふくしま」が、毎月県の広報協会から発行されていますが、今年の二月号の表紙に、本村広畑出身（福島市在住）の中井恒峯画伯の日本画が採用になっています。

「月刊ふくしま」は、県からの委託で福島県広報協会が毎月一回発行しているもので、県政の話題や、風土、観光、告知など豊富な記事と写真で編集されています。

採用された中井画伯の日本画は、〝奥鮫川路〟と題する作品で、赤いかく巻の婦人に防寒衣の子供と、バックに強滝が描かれており、美しいカラーの表紙です。



村の商工会青年部と婦人部は、合同で石田村長を囲む村政懇談会を２月24日、新築された商工会館研修室で開きました。

初め村長から村政の基本方向について講演し、これを中心に部員との質疑や意見の交換が行われました。商工業の振興についての活発な発言が相次いで出され、バイパス建設の要望なども出て、有益な催しでした。

村民歌を募集

鮫川村教育委員会では、教育的な見地から児童・生徒や一般村民の方々が親しみやすく、気軽にうたえる村民歌を選定するための要綱を制定しました。

これは、村民歌として一つだけ選ぶということではなく、教育委員会が委嘱した村民歌選定委員会が適当と認めるものを何曲でも選定し、村民が自由に歌える村民の歌を選ぶということです。

その内容は、村民の意識を高揚し、明るく豊かな村民性を養い、旺盛な生活意欲を振起する内容の歌曲ということが条件となりますが、これらにふさわしい「詩」又は詩に曲を符したものを公募しますので希望者は応募して下さい。

特に表題や形式、及び募集期間等は定めていませんので、随時応募されて結構です。

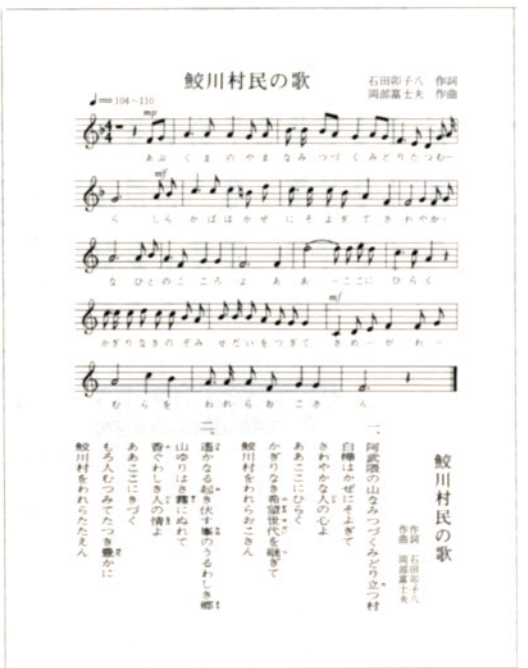
教育委員会では応募作品があり次第選定委員会に諮り、決定した歌曲については公表することにしています。

詳しいことは教育委員会（電話九―三一五一）に問合せて下さい。

村民歌 第一号決る

このたび、石田卯子八氏から、「詩」に曲を符した作品の寄稿があったので、選定委員会（杉山忠男委員長）に諮問した結果、村民歌とするにふさわしいという報告があったので、ここにその果実を公表します。

なお作曲は、石川町民の歌を作曲された郡山女子短期大学講師の岡部富士夫氏です。


鮫川村民の歌
石田卯子八 作詞
岡部富士夫 作曲
♩=104~110
あぶくまのやまなみつづくみどりたつむー
らしらかばはかぜにそよぎてきわやかー
なひとのこころよああーここにひらく
かぎりなきのぞみせだいをつぎてきめーがわー
むらをわれらおこさん
鮫川村民の歌
作詞 石田卯子八
作曲 岡部富士夫
一、阿武隈の山なみつづくみどり立つ村
白樺はかぜにそよぎて
さわやかな人の心よ
ああここにひらく
かぎりなき希望世代を継ぎて
鮫川村をわれらおこさん
二、遙かなる起き伏す峯のうるわしき郷
山ゆりはさ霧にぬれて
香ぐわしき人の情よ
ああここにきづく
もろ人むつみてたつき豊かに
鮫川村をわれらたたえん


酸素マスクについての説明を受ける児童たち

あっ火事だ！

青生野小で 避難訓練


ハンカチを口にあて、すばやく避難

三月一日、青生野小学校では、職員室から出火の想定で、避難訓練を行いました。

この日は、あいにくな雪の日でしたが、児童たちは先生の指示どおり、すばやく避難でき、訓練の成果をあげました。

訓練が終ってから、鮫川消防分署の皆さんによる放水訓練、酸素マスクを付けての人命救助訓練を見学したあと、学校の先生の消火器による消火訓練が行われ、火災に対する認識を一層深めました。

村社会福祉協議会の事業に 10万円を寄附

― 昭和57年初老会 ―

昭和五七年初老会（会長前田武久氏）の皆さんから、このほど初老会の記念事業として、現金一〇万円が村社会福祉協議会に寄附されました。

協議会では、この貴重な寄附金を、村の福祉事業に役立てるよう検討しています。

母子家庭の中卒生を 励ます会

母子家庭の中卒生を激励する会が、二月二二日民俗資料館で開かれました。この会は、母子家庭で母親の手ひとつで育った生徒の中学卒業をお祝いし、これから立派な社会人になるよう励ましてあげようという趣旨で、今年は四組の母親と子供さんが出席しました。

村長と来賓から励ましの言葉があり、村と郡の社会福祉協議会から記念品が贈られ、生徒の代表から誓いの言葉がありました。

国民年金だより

現況届は早めに提出しましょう

国民年金の老令年金・通算老令年金をうけている方が提出する現況届の提出期限は、年金をうけている方の「誕生月の末日」です。

例えば、三月生まれの方は、三月三一日までに提出することになります。

現況届は、国民年金を受けている方が、引き続き年金を受けられるかどうかを調べる大切な手続きです。

現況届が期限までに提出されないときは、提出されるまでの間、年金が差し止められるので、期限までに提出してください。

現況届の用紙は、提出時期の約一か月前に社会保険庁から直接本人あて送付されますので、必要な事柄をご記入のうえ、役場住民課で証明を受けて、社会保険庁へ返送してください。

ただし、年金の裁定を受けてから一年を経過していない方は、現況届を提出する必要はありません。

保険料が四月から五、二二〇円に

国民年金保険料が、四月から一か月五、二二〇円になります。

国民年金の給付費は、被保険者が納付する保険料の積立金と、国庫金によって賄われておりますが国民年金の健全な財政を保つため年金額の引上げに伴い、保険料の額も引上げる必要があります。

保険料を納め忘れたりすると、障害年金や母子年金が、また将来老令年金が受けられなくなったりすることがありますので、保険料は必ず期限までに納めるようにしましょう。



鮫川駐在所にミニパト配備

年々増加し続ける交通事故や犯罪などに対応するため、このほど鮫川駐在所に、ミニパトカーが配備されました。＝写真

このパトカーは、普通のパトカーよりやや小型なため、通称ミニパトと呼ばれているもので、排気量は一、三〇〇CCあり、小型でも性能は高度なものです。

郡内では、塙駐在所に次いで配備されました。

休日の在宅当番医

月日(曜)	当番医院		
	棚倉町	塙町	矢祭町
4月4日(日)	大木	石川	
11日(日)	藤巻		木村
18日(日)	直営診療所	中島	
25日(日)	和田	車田	
29日(木)	阿部	根本	

春の全国交通安全運動

4月6～4月15日

「あぶないよ　車が見えない　まがりかど」

四月六日から一五日までの一〇日間、春の全国交通安全運動が行われます。

今回の運動は、すべての人が正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけていただくため、次の三項目を重点に、幅広い運動が展開されます。

▽歩行者、特に子供の交通事故防止

▽自転車及び原動機付自転車の安全利用の促進

▽安全運転の確保、特に無謀運転の防止

心の用火

「毎日が防火デーです　ぼくの家」

この季節になりますと、空気が乾燥し、季節風が強く吹き、火災の最も発生し易い毎日が続きます。タバコの投げ捨てや焚火の不始末など、一寸した油断から思わぬ火災となりますので、村民一人一人が火の元の安全確認を行い、火災予防に努め、特に山火事には、充分注意しましょう。

◆タバコの投げ捨て、寝タバコは絶対行わないこと

◆子供の火遊びには注意し、子供の手の届く所には、マッチ、ライター等を置かないこと

◆火入や焚火をするときは、消防署に届出て、安全な場所で行うこと。

◆家を留守にするときは、もう一度火の元の安全を確かめること

火事と救急は一一九番

（棚倉消防署鮫川分署）



陸海空　自衛官募集

◇応募資格　一八才以上、二五才未満の日本国籍を有する男子

◇初任給　九六、〇〇〇円、一〇か月後一〇四、六〇〇円となりその後年一回昇給

◇賞与　年三回約四・九月分

◇その他寒冷地手当などの諸手当

◇手続きなどくわしくは、役場総務課又は自衛隊白河募集事務所（電話〇二四八二―四―〇三七二）におたずねください。